

もりおか復興応援フリーマガジン

# Stitch

[ステッチ]

TAKE  
FREE

vol.18  
2015.12.4

発行 / 盛岡市

未来をつくる、希望の芽吹き。

【特集】

地域のこれからをワクワクさせる

新しい未来のつくりかた

インタビュー

桜庭吉彦

(元ラグビー日本代表 /

金石シーウェイブス デイビジョンマネージャー)



# 未来をつくる、希望の芽吹き。

悲しみがすべてをさらって

一面の荒野だったその場所に

ひとつ、またひとつ、

未来をつくる希望が芽吹いていく

すくすくと育つものや

少し時間がかかるもの

栄養がないと消えてしまいそうなもの

あるいは、まだ芽が出ないもの

芽吹くスピードはそれぞれで

焦ったり、もどかしく思う日もあるけど

大丈夫。時間は未来にしか進まない。

今はまだ、まばらにみえるこの場所も

それぞれの花が咲いたら

きっときれいな景色に変わるよ。



もりおか復興応援フリーマガジン

# Stitch

[ステッチ]

vol.18 2015.12.4

02 未来をつくる、希望の芽吹き。

[特集]

04 **新しい未来のつくりかた**

10 三陸うまいもん紀行 ラーメン編

12 被災地の住宅事情

インタビュー

14 **桜庭吉彦**

(元ラグビー日本代表/  
釜石シーウェイブスディビジョンマネージャー)

18 盛岡から被災地へ  
「被災地派遣職員」

20 Stitch通信

21 みんなの3.11

22 Re:Stitch ~読者のみなさんから~

23 プレゼント

だから信じていよう  
悲しみの雨のあとは、あかるい光を注いで  
見守って、育てていこう  
未来をつくる、希望の芽吹きを。

発行日/2015年12月4日

企画・編集/株式会社ラデオもりおか

〒020-0871 盛岡市中ノ橋通1-1-21

TEL.019-621-7110 FAX.019-621-7153

デザイン/冬部幸治(創造集団 志庵)

印刷/山口北州印刷株式会社

Special Thanks/取材、制作にご協力いただいた皆様

※取材、撮影、制作など本誌作成にご協力いただいた皆様に  
厚く御礼申し上げます。

※掲載されている情報は平成27年11月1日現在のものです。

発行後の情報変更につきましてはご容赦ください。

※このフリーマガジンは、盛岡市の復興推進広報事業によって  
発行されています。

※無断転載禁止



Facebookでも  
情報を発信中!



地域のこれからを  
ワクワクさせる

# 新しい未来の つくりかた

エネルギー、地域、人との関わり、生き方。多くの人々の意識や価値観を変えた東日本大震災。1000年に一度ともいわれる未曾有の災害は、大きな爪痕とともに「新しいなにか」を見つけるきっかけをもたらしました。今回の特集では、「新しくワクワクする」未来づくりを始めた人たちを紹介します。特別なことじゃなくていい、あなたができる未来との関わりも、考えてみませんか？

DIYで発電所を建てちゃった！  
「お父さんのシニアパワー」が村を元気に  
～だらすこ工房～

「食べ物つきの月刊誌」を発行  
農業・漁業のカッコよさを伝えたい  
～東北食べる通信～





## 野田村のお父さんたちが DIYで太陽光発電所を建てました。

だらすこ工房

「男の居場所」がない  
山の中につくった「大人の遊び場」

岩手県の沿岸北部に位置する野田村は、海と山、両方の自然に恵まれた小さな村。東日本大震災では18メートルもの津波に襲われ、村民37人が犠牲に。住宅も約3分の1が被災しました。

震災から数ヶ月後には村内の5カ所に仮設団地が設けられ、多くの村民が移り住みましたが、部屋は狭く、共有の集会所では女性たちがお茶をしながらおしゃべりに夢中。仕事からリタイヤしたシニア世代の男性にとって、仮設団地は行き場がなく、いつも所在なげでした。

「だから声をかけたんです。木工の道具もあるし、遊びに来ない？ って」

そう話すのは「だらすこ工房」代表の大澤継弥さん。野田村の中心部から山道を進んでいくと現れるこの山小屋は、大澤さんが以前から趣味の木工を楽しむために使っていた場所。ここを、男性陣が集まる「大人の遊び場」にし

よう、と考えたのでした。

「最初に声をかけた人たちは冬を境に来なくなってしまう。それを仮設団地の自治会長をしている畑村(茂)さんに話したら、同じように『じいさんたちにも集まる場所が必要』と考えていたようで、周りに声をかけてくれたんです。2012年の6月ぐらいだったかな」

そうして集まったのは、大澤さん、畑村さんを含めた5人。仮設住宅から小屋に通い、ものづくりを楽しんでい



どこか懐かしい雲田気凛う工房のたたずまい。「だらすこ」とは、方言で「ふくろう」のこと

るうちに、警置きなどの小物が評判になり製品として売り出すことに。これが「だらすこ工房」のはじまりでした。

## メンバーはプロの集まり

### 自分たちの力で発電所を設置

だらすこ工房の素材でかわいらしい木工製品とその活動は注目を浴び、子どもから大人までいろんな人が木工体験や見学に訪れるように。そんなある日、前から交流のあったNPO『環境パートナーシップいわて』を通じて工房に相談が持ち込まれます。

「『太陽光発電所ネットワーク(PV-net)』というNPOが、太陽光発電所の用地を探しているという相談でした。市民主体で発電所を運営し、被災地の自立と復興を目指す取り組みだということで、それだったら日当りのいい工房のそばの土地を提供するよ、と言ったんです」

そのときは「土地を提供するだけ」だと思っていた大澤さん。しかしPV-netの提案は「自らの力で発電所を



④太陽光発電所建設中のようす。パイプのくみ上げも、メンバーにかかればあつという間  
⑤発電所の点灯式で記念撮影をするメンバー。左から石花栄さん、大澤継弥さん、畑村茂さん、赤坂正一さん、広内幸作さん

建設・運営する」というものでした。

「最初は驚いたけど、考えてみたら自分は電話の配線の仕事をしていて、みんなも出稼ぎ等で土木や建築現場で長く働いた経験がある。プロが揃っているんだから、やれる！つて」

こうして話はまとまり、専門家の指導のもと、木の切り出しや基礎の打ち込み、太陽光パネル設置などすべての作業をメンバー5人で実施。「重機も使ったけど、みんなお手のものだよ」と笑う大澤さん。ほどなく施設は完成し、2013年6月『野田村だらすこ市民共同発電所』は発電を開始しました。

発電所はだらすこ工房とPV-net、環境パートナーシップいわての3者からなる合同会社で運営。ピーク時には月20数万円の売り上げがあり、非常時に使える自立運転も可能です。

「今使っている電気が、自分のところで作られたものかもしれない、と思うと、誇らしいよね」と大澤さん。

発電所の開設以来、工房への来訪者



この日は大阪から「毎月のように通っている」という大学生が来訪。こんな出会いや交流も、工房の活動があるからこそ

はさらに増え、全国から「自分のところでも発電所をつくりたい」という視察や、大学生のグループなども訪れるようになりました。

## 年寄りたちのがんばりが 若い世代の励みになればいい

「野田村だからすこ市民共同発電所」は、市民ファンドで一般から投資を募って建設され、売電で得た利益の1%を還元しています。資金は10年ほど返済できる見込みで、その後の利益は村に還元するつもりだと大澤さん。また、津波で流出した防潮林を復活させる「のだ千年の松プロジェクト」にも参画。工房で販売している木工製品の売り上げの一部を寄付しています。

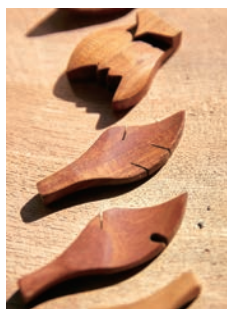
「発電所も、防潮林のプロジェクトも、今を生きる自分たちのためじゃなく、未来のため。『年寄りたちもがんばってるな』って、復興の長い道のりを担う若い世代が少しでも励みにしてくれたらと思ってるんです」

以前は「服装や態度だけ見て、今の

若いもんは何やってんだって思ってた」という大澤さん。工房での活動を通じて若い世代との交流が増え、自分たちの意識も変わったと話します。

「ちゃんと話してみると、中学生ぐらいでもしっかり考えているんだよね。この子たちがいるなら野田村の将来はきっと大丈夫って思う。工房をやつてなかったら、気づくことができなかつたかもしれないね」

行き場のないお父さんたちのためり場だった「だからすこ工房」が、今では全国から人が訪れ、未来への思いをつなぐ場に。「自分たちでもできる」というシニアパワーの誇りと自信が、野田村の未来を照らす光になっています。



「だからすこ工房」の木工製品のひとつ、箸置き。ほかにもキーホルダー、村の新生児に贈る木製パズルなども製作しています

# 「食べ物つき情報誌」をきっかけに 「都市と地方」の関係性を変えていく

## 東北食べる通信



「食べ物の裏側」にある、生産者の  
思いとカッコよさを伝えたい

2013年7月に創刊された「東北  
食べる通信」は、会員制の「食べる月  
刊情報誌」。月ごとに東北各地の「熱  
い」生産者をクローズアップし、実際  
に作られている農水産物も「付録」と  
して届けられます。

東北の豊かな食材と、それを作る生  
産者たちの哲学、生きざまを、冊子の  
洗練されたビジュアルと熱のこもった  
文章で「知り」、一緒に届け農畜産物や  
魚介類を実際に「食べてみる」。こう  
いったスタイルの雑誌は他に例がな  
く、2014年には「グッドデザイン  
賞」の金賞を受賞するなど、大きな反  
響を呼びました。

発行元のNPO法人「東北開墾」代  
表で、東北食べる通信の編集長を務め  
る高橋博之さんは元県議会議員。震災  
後は大槌町などを拠点に三陸の水産  
業の復興をサポートしていました<sup>(※)</sup>。  
食べ物つき情報誌というコンセプト

は、法人の設立後、仲間のアドバイス  
から生まれたもの。しかし高橋さんは  
「第一次産業に希望を」という思いを議  
員時代から抱いていました。

「大学進学で上京するまで花巻で育  
ちました。正直に言うと、以前は第一  
次産業をキツイ、稼げない、という世  
間のイメージのままに見ていた。けれ  
ど岩手で議員になって、生産者の方々  
と交流するうち、自然とともにあるそ  
の生き方、考え方に感動したんです」

震災後、漁師の知り合いが増えたこ  
とで、その思いはさらに膨らんだと高  
橋さん。「自然を相手にしている人た  
ちは、完成されたものを消費している  
だけの僕らとは人間が全然違う。カッ  
コいいんです。でも多くの人はそれを  
知ることがないから、値段や見た目だ  
けで食べ物を評価してしまう。店に並  
ぶ食べ物の裏側にある、生産者の覚悟  
や生きざまを伝えたい。それはずっと  
思っていました」

<sup>(※)</sup>Stio7号(2013年3月)の特集にも「漁師の右腕」として座談会に登場。





④取材対象は「自分が惚れ込んだ人」と高橋さん。新聞記者志望だったという高橋さんの文章は「熱い」。真摯に取材相手と向き合っていることが伝わってくる ⑤編集スタッフは5人。冊子の折り込みみや発送も手作業で



## 豊かさを測るモノサシはひとつじゃない

「東北食べる通信」の購読料は月2580（創刊時は1980）円。2013年7月の創刊以来購読者を増やし続け、現在は上限いっぱい1500人。新規の購読希望者は数ヶ月待ちという状態です。また、生産者と読者はFacebookのグループページでつながり、生産現場のレポート、出荷の様子、届いた食材を食べた感想などを投稿し共有。生産者をゲストに迎えイベントも開催するなど、交流の場づくりも設けています。

「購読者の7割が首都圏在住。SNSで農作業の人手が足りない」と知った読者が手伝いに行くなど、生産者と読者の交流が日常的に起きています」

その「交流」こそが、食べる通信が目指していること。「食べ物が作られる場所や人の思いに心を寄せる人を増やしたい」と高橋さんは話します。

「都市と地方が、お互いに持っているな

いものを補い合える関係をつくりたい。今まで、豊かさを測るモノサシは『所得水準』だけだった。でもモノサシを『時間』『食』『自然環境』と増やしていけば、都市と地方の関係性も変わるはず」

東北食べる通信は、都市と地方をつなぐ「仲人みたいなもの」と高橋さん。「東京で生まれ育ち、帰省先を持たない人が増えています。そういう人たちが都会暮らしに少し疲れたとき、『ただいま』と言って帰れるような、第2の故郷をつくるきっかけになればいいな、と思っています」と話してくれました。



生産者をゲストに迎えた交流イベント。読者と生産者だけでなく、読者どうしのコミュニティも生まれる



2014年4月には「日本食べる通信リーグ」を設立。創刊準備中ものを含めると、現在全国に23種類の「食べる通信」がある

食べて  
温まりたい  
**ラーメン**  
編

寒い冬にうれしい、あったか〜いラーメン。  
今回はほっとあったまる三陸のラーメンをご紹介します。  
おいしいラーメンに出会いに、三陸へ出かけませんか？

ぷるぷるの鶏皮がクセになる至極の一杯

**鶏皮ラーメン** 600円

スープに使用する「鶏油」をつくる際に使用する鶏皮を、ほかに利用できないかと考えて生まれた「鶏皮ラーメン」。茹でて油抜きをし、しょう油に漬け込んだ鶏皮の柔らかさとぷるぷるの食感がクセになる。細ちぢれ麺に絡むのは、にぼし、かつおぶし、むろあじのだしを使ったしょうゆベースのスープ。鶏油を垂らしてまろやかなコクのある風味に。「まずはこしょうを入れないでラーメンの味を楽しんでほしい」というのも店主のこだわり。「藤正ラーメン」(800円)も人気。

**藤正亭**

- 岩手県久慈市大川目町13-78-2
- ☎0194-55-3534
- 🕒11:00~15:00、17:30~21:30(日・祝21:00まで)
- 🚫火曜夜のみ



スタミナ満点!ラグビーの街釜石の名物ラーメン

**ラグーラーメン** 830円

20年ほど前からあるという、ラグビーの街ならではの名物ラーメン。以前の店主の意思を継ぎ、現在の店主菅野光夫さんが震災後に復活させた。もやし、たまねぎ、ピーマン、ひき肉、さくらげを炒めた具材に、ラグビーボールをイメージしたゆで卵が浮かぶ。麺はフォワード麺(太麺)とバックス麺(細麺)の2種類から選べる。とんこつベースで鶏ガラや昆布のだしも入ったスープは辛みそでスタミナ満点。店内には新日鉄釜石ラグビー部時代の選手のサインや写真も。

※写真はフォワード麺(太麺)



「釜石オリジナルのラグーラーメンを味わいに来て」と店主菅野光夫さん

**大連**

- 岩手県釜石市大町1-2-10タウンポート大町1F
- ☎0193-22-1230
- 🕒11:00~15:00、18:00~20:30
- 🚫月曜日(月・祝の場合は水曜日)

# 日陸 うまもん紀行



## 元漁師厳選、豪華海鮮ラーメン

**磯ラーメン** 1,080円

えび、かにつめ、つぶ、イカ、タコ、うに、しゅうり貝、ホタテ、イカゲソ、海藻が入った海の幸満載のラーメン! しゅうり貝やホタテでだしをとり、塩で味付けしたスープと細ちぢれ麺が絡む。磯の香り漂うスープは体にスツと染み込むほどやさしい味。元漁師の店主が選んだ地元の素材を堪能できる。1日10食限定の刺身定食も人気。今年で開店17年目。震災後も以前と変わらない味を提供し続けている。

### 魚定

- 岩手県下閉伊郡普代村第6地割中山29-1
- ☎ 0194-35-3011
- 🕒 10:00~20:00
- 🏠 不定休



「普代の海の幸を堪能してほしい」と店主太田定治さん

## ツルツルワンタンとコクのあるスープ

**ワンタン麺** 550円 (大盛り 650円)

豚足とにぼし、昆布のだしでコクのあるスープは思わず飲み干したくなるおいしさ。うす皮にこだわったワンタンはつるつるとした食感でのごしごしい。ワンタン、ちぢれ麺それぞれ食べてもおいしいが、ワンタンとちぢれ麺と一緒に口の中へ運ぶとまた違った食感が楽しめる。チャーシューはローストしてうまみを凝縮。宮古でも人気の高い、シンプルながらも忘れられない一杯。



### ワンタン・中華そばの店 福

- 岩手県宮古市保久田2-17
- ☎ 090-3129-3516
- 🕒 11:00~19:00(月土日祝)、11:00~20:00(火~金) ※スープがなくなり次第終了
- 🏠 不定休

# 被災地の住宅事情

今回のステッチでは、  
 県が応急仮設住宅に入居している人たちに対して行った  
 「被災者の住宅に関するアンケート結果」と  
 「応急仮設住宅、みなし仮設住宅入居戸数の推移」をもとに、  
 仮設住宅の現況について見つめ直します。

## 仮設住宅の種類

東日本大震災津波で被害を受けた人  
 に対する住まいの対応策として、沿岸市  
 町村を中心とする各地に供給された仮  
 設住宅。プレハブ建築協会と公募事業者  
 によって造られた、プレハブによる簡易  
 住宅を主とするものを「応急仮設住宅」、  
 空き家となっていた民間賃貸住宅や公  
 営住宅を行政が借り上げて供与してい  
 るものは「みなし仮設住宅」と区別され  
 ている。

応急仮設住宅は、県が震災発生直後か  
 ら早期建設に取り組み、2011年3月  
 19日に着工、同年8月11日にすべての応  
 急仮設住宅1万3984戸を用意した。

## 仮設住宅の現在

平成27年8月現在、仮設住宅の入居者  
 数は2万4495人。供給されている1  
 万3637戸のうち8896戸は応急  
 仮設住宅である(資料1参照)。  
 いずれの数値も震災発生から1年以

### 資料1 仮設住宅の推移

	供給戸数	応急仮設住宅		みなし仮設住宅				計	
				民間賃貸住宅		公営住宅等			
				戸数	人数	戸数	人数		
平成23年 7月29日	13,984	10,235	24,799	3,344	8,591	1,065	3,164	14,644	36,554
平成24年 3月30日	13,984	13,187	30,755	3,188	8,191	998	2,965	17,373	41,911
平成25年 3月1日	13,984	12,679	28,968	2,697	6,867	893	2,635	16,269	38,470
平成26年 3月31日	13,908	11,546	25,619	2,138	5,353	750	2,218	14,434	33,190
平成27年 3月31日	13,721	9,942	21,530	1,706	4,150	635	1,893	12,283	27,573
平成27年 8月31日	13,637	8,896	19,189	1,469	3,520	585	1,786	10,950	24,495

### 資料2 戸数および入居者数のピーク期

供給戸数	応急仮設住宅		みなし仮設住宅				計	
			民間賃貸住宅		公営住宅等			
			戸数	人数	戸数	人数		
13,984	13,228	31,728	3,474	8,992	1,065	3,164	17,622	43,738
H23.7.29	H24.1.13	H23.10.28	H23.10.21	H23.10.21	H23.7.29	H23.7.29	H23.12.2	H23.10.14

内に数値のピークを迎え、現在は減少傾向にある(資料2)。入居者の減少にあわせ、応急仮設住宅は解体されているとこ

るもあり、平成27年8月31日現在で13の仮設住宅団地が解体。戸数では442戸が解体されている。

また、住居としての使用を終えた仮設住宅の一部が、集会所や談話室として利用されているケースもある。

## 使用者アンケートからみる 使用者の傾向

平成25年度と平成26年度に岩手県が行った「被災者の住宅に関するアンケート」によると、応急仮設住宅入居者の内訳は単身世帯と核家族が多いことがわかる。世帯主について60代以上は第1回調査（平成25年度）で約60%、第2回調査（平成26年度）では56%を超える。また、第2回調査ではおよその世帯年収も調査。応急仮設住宅入居者は「無収入から200万円まで」の入居が5割程度であることがわかった。（資料3参照）

## 行政の対応と今後の取り組み

現在の仮設住宅では単身世帯や核家

族、高齢者の入居割合が高く、経済的困窮、コミュニティの断絶といった課題があげられる。このことから、各自治体やNPO、ボランティアが連携し、コミュニティの活性化に取り組んでいる。また、女性の社会進出を促進する講演会や

ワークシヨップも行っている。一方で、住宅再建支援策として、災害公営住宅の整備や持ち家（自力再建）、民間住宅の賃貸への支援を行うことで、よりよい住まい環境の整備を目指して

### 資料3

#### 第1回 応急仮設住宅入居者の状況

世帯人数		世帯主の年齢		世帯構成		およその年収	
1名	16.3%	20～30代	6.8%	単身	15.9%	データなし	
2名	30.6%	40～50代	31.1%	夫婦のみ	20.1%		
3名	23.1%	60代～	60.1%	親と子	41.3%		

※プレハブ建築協会の欄より（平成25年）

#### 第2回 応急仮設住宅入居者の状況

世帯人数		世帯主の年齢		世帯構成		およその年収	
1名	28.0%	20～30代	11.2%	単身	26.8%	200万円以下	48.4%
2名	33.6%	40～50代	30.0%	夫婦のみ	21.8%	～300万円	17.1%
3名	14.2%	60代～	56.4%	親と子	35.1%	～400万円	8.6%

※公募事業者の欄より（平成26年）

※被災者の住宅に関するアンケート第1回（平成25年度）と第2回（平成26年度）の調査結果のうち、一部抜粋

#### 参考

岩手県「いわて復興の歩み」 <http://www.pref.iwate.jp/saiken/sumai/023870.html>  
<http://www.pref.iwate.jp/kenchiku/saigai/kasetsu/009715.html>  
<http://www.pref.iwate.jp/kenchiku/saigai/tsunami/005304.html>  
<http://rainbow.nttdocomo.co.jp/current/>

自分を育ててくれた釜石とラグビーを  
元気にしていきたいと思います。

Stitch INTERVIEW

# 桜庭吉彦

[元ラグビー日本代表／釜石シーウェイブス デビジョンマネージャー]

今回は、新日鉄釜石ラグビー、釜石シーウェイブスの名選手で、3度のワールドカップにも出場。現在は釜石シーウェイブスディビジョンマネージャーを務める桜庭吉彦さんにインタビュー。ご自身が感じるラグビーの魅力や、アンバサダーを務める2019年ラグビーワールドカップについても伺いました。

**Q**秋田工業高校3年生の時に花園での全国大会優勝を経験後、新日鉄釜石（現・新日鐵住金）に入社した桜庭さん。当時新日鉄釜石は日本選手権で当時最多の7連覇を達成し、黄金期でしたね。

私が入社したのは1985年4月で、数ヶ月前の1月に、新日鉄釜石が7連覇を成し遂げました。その時は入社することが決まっていたので、同じ東北の、しかも日本一のチームの一員になれることがうれしかったです。

**Q**当時の印象、覚えていますか？  
その7連覇の試合の前に、前座とし

て「高校東西対抗試合」というのがあって、私も出場していたんです。新日鉄釜石の応援に来ていた人たちが、「桜庭がんばれ、待ってるぞ」と国立競技場のスタンドから声をかけてくれて。釜石の人の心のあつたかさを感じました。早くチームに貢献できる選手になりたいと思いましたね。

**Q**釜石に来てからも、声をかけられましたか？

身長が高くて目立つのもあって、まちなかでもよく声をかけられました。今でもそう。夜の酒場なんかでよく話しかけられます（笑）。

**Q**入社の翌年から日本代表に選ばれ、ワールドカップにも3度出場されていますが、ずっと釜石なんですね。移籍は考えたことなかったですか？

話をいただいたことはありますが、やはり釜石で、という気持がありました。ここで仕事をしながらラグビーをやらせてもらったから、国際試合、遠征などいろんな経験ができ、日本代表にもなれた。お世話になった場所を離

れられない、という思いがありました。  
**Q**その後は苦戦する時期が続き、2001年には新日鉄釜石ラグビー部としての歴史に幕が下りるとともに、地域密着型のクラブチーム「釜石シーウェイブス」として再スタートが切られました。

新日鉄時代も、地元の人にたくさん応援してもらいましたが、どちらかというとチームは企業のものだったと思います。シーウェイブスになってからは「おらがまちのチーム」として、釜石をはじめ県内の人に広く支援や参画をしていただいて、オープンな感じでやれている、というのが大きな変化だと思っています。

**Q**東日本大震災が発生したとき、外国人選手も釜石に残り、避難所などに物資を運んだりしているのを報道で見ました。チームとして何かしなければ、という思いがあったのでしょうか。

震災直後はもちろんラグビーどころではなく「ラグビーを続けられるのか」という不安もありましたが、とに

かく今できることをしよう、という気持ちでした。それから4年半以上経った今、自分たちができるのは、被災した方々に希望を持ってもらえるような行動をし、いいニュースを届けること。つまり、強いチームにして応援しなくなるチームをつくることだと思っています。

**Q**スポーツって、観ている人も夢中になれるし、明るい気持ちにしてくれるチカラがありますよね。

はい。特にラグビーは、ぶつかったり転んだりを繰り返して前に進んでいくスポーツ。タックルされてもすぐ起き上がって、ボールを繋ぎながらトライを目指すというところが、それぞれが抱えている思いと重なるのかもしれない。大きな反響を呼んだ今年(2015)のワー

ルドカップもそう。サイズが違う相手に勇気を持って立ち向かっていく日本チームの姿が、観ている人を熱くしたのかもしれないですね。

**Q**2019年にはラグビーワールドカップが日本で開催され、釜石もその

会を報道などで見て「4年後には釜石であの大会をやるんだ」というイメージができたと思いますね。あるいは「ここでやらなければならないんだ」という緊張感もあると思います。

**Q**ワールドカップのPRをする「アンバ

ラグビーは、ぶつかったり転んだりを

繰り返して前に進んでいくスポーツ。

その姿が、それぞれが抱えている思いと

重なるのかもしれない。

サダー」も務めていらつしやいます  
が、任命されたとき「ラグビーに夢中になっていた世代が、もう一度ラグウンドに戻ってくるような役割を果たしたい」とコメントしてしましたね。

そうでしたね！

開催地のひとつになりますね。決定後のまちの盛り上がり、感じますか？

決まった時は、盛り上がる一方で「ワールドカップってどんな感じ？」とピンときていないところがあつたと思います。でも今年のイングラランド大

潜在的なファンを掘り起こす、という思いがあつたと思います。一方で課題として、もつと若い世代に興味を持ってもらいたい、というのがあります。

**Q**ラグビーにはどんな魅力があると感じていますか？



ラグビーをするには勇氣が必要。そしてチームスポーツのなかでも大人数がプレーをします。体格がいい、身長が高い、小さくても足が速い、キックがうまいなど、いろんな要素を持つプレーヤーがいて、ひとつのチームになる。これって社会と一緒だと思うんです。そういう教育的価値もあるよ、ということを知っている活動を重ねて、ラグビー人口の底辺を拡大していきたいです。

**Q**桜庭さんご自身も、ラグビーから学んだことは多いですか？

はい。自分の役割を果たすことでチーム全体がいい方向へ行くということ。それにはお互いの信頼関係が必要で、信頼を得るためにはどんな行動をしなければならぬかを考えること。「いい結果を出すためには、いい準備をしなければならぬ」というのも、ラグビーに教わりました。



新日鐵釜石ラグビー部時代の桜庭さん(右)

**Q**釜石をはじめ、津波の被害にあつた地域はまだ復興の途中です。とはいえ、ボランティアや物資支援というのも以前ほど需要がなくて……。内陸の私たちにできることって、なにがあるでしょうか。

いろんな意見があると思うんですが……。私自身は「見守っていてほしい」と思っています。ずっとここで暮らしている私から見ても、釜石は日々変化しています。その変化を時折訪れて実感したり、来る事はできなくても心を寄せたり、というのを継続してもらえたら、と思います。

**Q**ありがとうございます。では最後に「釜石シーウェイブス」の今年の抱負を。

チームは今、トップリーグ下部の「トップイーストリーグ1部」に所属していますが、去年はトップリーグへの昇格を争うところまで戦うことができ、シーウェイブス

の歴史上一番いい成績を残すことができました。今年はそれを上回ることを目標です。具体的には、トップリーグのチームに勝利すること。そのためには1試合1試合勝利を重ねて、一歩ずつ成長していけたら、と思っています。



桜庭吉彦 [さくらば よしひこ]

1966年秋田県生まれ。秋田工業高校3年生のとき花園(全国高校ラグビー大会)で優勝。1985年、新日本製鐵釜石製鐵所に入社し、チームの顔として活躍。2005年までの現役生活で3度のワールドカップ出場を経験する。2006年に現役を引退。現在は釜石シーウェイブスディビジョンマネージャー、および2019年ラグビーワールドカップアンバサダーを兼任。



陸前高田市  
建設部建設課 道路河川係

主事 藤根 稔さん

盛岡市建設部用地課主事として盛岡市で勤務してきた藤根さんは、現在陸前高田市建設部建設課に派遣されています。

道路や河川を整備するための用地の取得が藤根さんの主な仕事。「陸前高田では復興に向けて迅速に仕事をしなければいけない、という意識で業務にあたっています。地域性や事業の内容も場所が違えば変わるということを、日々の仕事のなかで実感しています」。甚大な被害を受けた陸前高田市の道路整備は、範囲も広く大規模。盛岡との違いを感じながらも、市街地の幹線道路や緊急避難路の整備を重点的に行っています。

用地取得のために交渉をすることも。「土地は先祖代々の場所なので大事ですよね。土地に対する思いを聞くこともあります。それでも復興のためにと土地を譲ってくれるので協力を有り難く思います」と感謝を忘れずに地域に向き合います。

「復興にはまだ時間がかかるので、これから来る派遣職員とバトンタッチをしながら進めてい

なければいけない。いろいろな地権者さんや職員との関わりのおかげで、相手への配慮、立場を考えて仕事をしていくことを学びました」と藤根さん。

同僚には島根県松江市や愛知県名古屋市の派遣職員もいます。「県外からの派遣職員は使命感を持ってここにきているので、一緒に仕事をすることは刺激になります。岩手県民として『ありがとう』と伝えたい」。現在は仮設住宅に住みながらの生活。同僚との飲み会では陸前高田ならではの新鮮な海の幸を楽しんでいると話します。

「震災で増えた業務量をまかなうには派遣職員がまだまだ必要」と藤根さん。「3月の派遣終了までに、微力ながら貢献できたなと自分が思えるところまで仕事を進められれば」と思いをこめて仕事にのぞみます。



県外からの派遣職員、現地職員と連携しながら。笑顔が絶えない職場です

# 盛岡から被災地へ

東日本大震災後、被災地域の市町村を助けるために各地から派遣されている「被災地派遣職員」。2015年4月から2016年3月までの期間、盛岡市から派遣されている現在の派遣職員の取り組みを伝えます。

# 「被災地派遣職員」



大船渡市  
生活福祉部 地域福祉課 障害福祉係

主事 佐藤 玲奈さん

盛岡市保健福祉部障がい福祉課主事の佐藤さんは、大船渡市生活福祉部地域福祉課に派遣。現在は障害福祉係身体障がい者担当として障がい福祉サービスへの支援決定、身体障害者手帳の進達や日常生活用具の給付を主に行っています。

「私の仕事はこの地域にもある仕事だけれど、盛岡よりも規模が小さいので今までやっていなかった仕事も経験させてもらっています」。

窓口に来る人と顔見知りになり、街で声をかけられることも。派遣職員が各地から来ていることもあり、特に新しい派遣職員は「どこから来たの?」とよく話しかけられます。職場の同僚23名のうち派遣職員は6名。佐藤さん以外は群馬県高崎市や神奈川県相模原市など県外からの派遣職員です。

「盛岡では事務的に対応してしまいがちでしたが、ここでは世間話をしながら一人ひとりじっくり向き合うことが多いです。大船渡の人は、ちょっとしたことでも市役所まで来てお話をしてくれる人が多いのかもしれない」と、地元の人との交流を大事にしています。

大船渡では応急仮設住宅に住み、休みには派遣職員の仲間と五葉山登山や近隣の観光地へ。夏には大船渡の祭りにも参加しました。「職場の雰囲気もよく話しやすいし、同じ団地に住む派遣職員は仮設住宅生活の相談にも乗ってくれるので、快適に暮らせています。大船渡は海が見えるので、内陸育ちの私には新鮮」。

震災直後よりも派遣職員の受け入れ体制も整い、現地職員と同じように仕事を任せてもらっているとのこと。また、県外からの派遣職員とは制度の理解や情報交換もでき、刺激になると感じています。「大船渡では、名前を聞いただけでどんな人か分かる、アウトホームなのがいい。余裕をもって相手の話を聞く、ということも、盛岡に戻っても実践できれば」と大船渡での学びを生かしたいと考えています。



職場では利用者の相談内容に応じて助け合いながら業務をすすめています



# Stitch 通信 01

過去にStitchで紹介した人の「いま」を訪ねるコーナーです。



## 「体験する」「育てる」「自立する」 リニューアルして、新しい「Laugh」へ

陸前高田未来商店街「Laugh」菅野恵さん

勤めていた東京のアパレル会社を辞め、故郷の陸前高田にUターン。2012年4月にセレクトショップ「Laugh (ラフ)」をオープンした菅野恵さん。

Stitchに登場してくれたのは2014年3月。1人でお店を切り盛りしながら「将来は市内にいくつかのお店を持ち、『ここで働きたい!』と思ってもらえるような、若い人の雇用も生み出したい」と話してくれました。

それから1年と半年。久しぶりにLaughを訪ねると、なんとスタッフが2人増えていました。菅野さんは残念ながら長期出張中。商品の仕入れなどで忙しい日々を送っているようです。

Laughは今年秋にリニューアル。「体験する」「育てる」「自立する」をテーマに、商品ラインナップに多肉植物を加えるなど「日常のちょっとしたこと」を提案するとともに、石けんづくりなどのワークショップも開催していくとのこと。夏にデビューしたばかりのオリジナルアクセサリーブランド「Hanahaco」「深友(しんゆう)」も好評です。

2015年夏にデビューした、Laughのアクセサリーブランド「Hanahaco」。陸前高田の女性の強さ、美しさをコンセプトにしています

陸前高田市竹駒町字滝の里3-1  
陸前高田未来商店街内  
0192-47-4760  
<http://laugh-rikuzentakata.jp/consept/index.html>



### HOTEL BRIGHT INN MORIOKA

ステッチ読者ご優待価格

素泊まり	1名様	5,000円(税込み)
	2名様	10,000円(税込み)

☎ チェックイン 13:00    ☎ チェックアウト 11:00    ☎ 019-652-7300

ご利用の方は予約の際に「ステッチを見た」とお申し付けください。



### ホテルブライイトイン盛岡

岩手県盛岡市中ノ橋通1-1-21

# みんなの3.11

2011年3月11日14時46分。みなさんは、どこで何をしていましたか？どんなことを感じ、考えていましたか？このコーナーでは、Stitchに寄せられた「あの日の記憶」をご紹介します。



震災の時は郡山に住んでいました。マンションの2階でしたが部屋の中は荷物が散乱して住める状況ではありませんでした。電気、水道は1週間近く止まりました。水の大切さを思い知らされました。原発事故もありましたが、子どもも大きいことから避難はしませんでした。●40代/女性/福島県/主婦



その時はバスが動いてくれたから家に帰ることができ、安心しました。ただ、家に帰ってからはラジオなどを聞いて、これが日本で本当に起こっているのかという現実を受け入れられなかったのが印象に残っています。その一方で、ラジオの大切さをその時すごく感じました。●20代/男性/奥州市/会社員



入院中の友人を見舞った帰宅途中、橋がプランコのようにゆれました。心臓がバクバクするのを落ち着かせようと何度も深呼吸し、急いで帰宅したことを覚えています。●50代/女/盛岡市/主婦



当日は研修会で盛岡にいました。電車も止まってしまったので、同じ職場の人を車に乗せて県道13号を一関まで帰りました。研修会前にガソリンを満タンにしていたので、その後に必要な人に分けることもできました。困った時はお互いさまだということを改めて感じた数日でした。●30代/男/一関市/公務員



震災の時は仙台にいました。仕事でだった私はお客さまの避難誘導に必死だったこと、雪が舞う外でブラウス一枚の格好で待機したこと、家族と連絡が取れぬまま同僚と何時間もかけて徒歩で帰宅したこと、真っ暗で荒れた自宅に土足で入り、必要な物を手にとり家族が集まりそうな所へ何kmも自転車を走らせたこと、避難所や親戚宅を回って過ごしたこと……など記憶が鮮明に蘇り、涙があふれてきました。●30代/女性/盛岡市/主婦



あの日は旅行に行く予定でした。中止になり、代金が戻ってきたので早速募金箱に直行しました。少しは役に立ったかな？ ●60代/女性/東京都/主婦

Stitchではみなさんの「身近な震災体験」を募集しています。誌面で共有することで、東日本大震災とその復興について考え、思いを馳せるきっかけにしたいと考えています。

エピソードはこちらへ [✉ stitch@morioka-fukkou.com](mailto:stitch@morioka-fukkou.com)

ツイッター・フェイスブックでも募集中。「#いまこそ話そう311」タグをつけて投稿してください。※お住いの市町村、性別、年齢、職業も一緒にお書き添えください。

人と人の調和を目指し  
新たなステージへ



永代印刷株式会社

〒020-0857 岩手県盛岡市北新町1丁目8-30  
TEL.019-636-0011  
FAX.019-636-0099

朝日新聞 日本経済新聞 日刊スポーツ 盛岡タイムス

ご購入のお申し込みは

**ASA** 株式会社 **東北堂**

〒020-0878 岩手県盛岡市着町3番21号  
TEL 019-624-2413 FAX 019-622-3699

# Re:Stitch

～読者のみなさんから～

Stitch (ステッチ) に寄せられた声の一部をご紹介します。みなさんのご意見を参考に、よりよい誌面づくりに取り組んでいきます。これからもご意見・ご感想よろしくお願ひします。

特集を読んで、あの日のことを改めて思い出していました。あの日体験したことをこれからも後世に伝えていきたいと思ひます。

●20代女性／会社員(宮古市)

読むと必ず自分も3.11を思い出します。1歩ずつでも少しずつ前に進んでいきたいと思ひます。

●50代女性／事務職(盛岡市)

今回初めて手に取りました。私は震災時岩手に住んでいなかったため、盛岡の周辺でもこのような混乱があったのだととても勉強になりました。せめて自分にできることをと思ひ、定期的に沿岸部に足を運んでいます。さらに復興状況や三陸地方の美味しいものなどを知りたいです。

●30代女性／主婦(岩手町)

3.11のエピソード、改めて震災の大きさを感じました。岩手に来なければStitchにも出会うことはなかったと思ひます。

●40代女性／主婦(秋田県)

毎号読むように心がける1冊となっています。今回は内陸部に住んでいる私たちの「あの時」がテーマで、また違った視点での気づきがありました。地震、津波に襲われた沿岸では家族の安否も確認できない不安と戦う中、内陸部では何もかも奪い合いの戦場化。そのような内容が書かれてありましたが私も同じ事を思ひました。少しでも力になれるよう、まずはこれからも応援し続けます!

●30代女性／会社員(滝沢市)

私たちの3.11、それぞれの体験を見ると、自分の3.11を思い出します。その日、その時間、みんな大変な思いをしましたね。一生忘れないと思ひます。

●40代女性／主婦(一関市)

私たちの3.11はとてもいい特集だと思います。内陸の人たちは、4年経って、あの時のことを話す機会が減ってしまったと思うので……。

●20代女性／会社員(八幡平市)

私の実家は宮城にありますが、岩手との県境に近いこともあり、3.11からの復興状況は絶えず気になる情報でした。今回「Stitch」を入手できてとても嬉しく思ひます。今はアンテナショップにしょっちゅう行ってふるさとの味を味わっています。今後も情報発信楽しみにしています。

●40代女性／看護師(福岡県)

今回初めてStitchを読みました。1日も早い復興に向けて、1人ひとりができることをやっていかなければ、と改めて思ひました。頑張ってくださいよ。

●50代男性／会社員(盛岡市)

初めまして。貴誌を手にしたのは今回が初めてです。3月11日あの日から来年で丸5年になります。早いのか遅いのか……色々な人のさまざまな「3.11」がありました!!

●70代女性／無職(一戸町)

お歳暮  
忘年会に

岩手  
ぶくし

酒米・酵母・麹

今年2・年・目・の新酒

魚火  
はて

甘口・香りがよく  
女性に好評!

盛岡各飲食店・小売店

株式会社 デジアイス 0197-56-7566

三陸をはじめ全国から仕入れる旬のネタを職人が心を込めてお届けします

回車云魚旨  
清次郎  
SEIJIRO  
田海魚店直営

盛岡津志田本店  
019-639-2815  
フェザン店  
019-654-8015  
イオンモール盛岡南店  
019-656-6555

詳しくはホームページをご覧ください。http://www.seijiro.jp

# 読者プレゼント

復興応援をしているお店や企業・団体の  
おいしい逸品やオリジナルグッズをプレゼント!  
ご意見ご感想を書いてぜひ応募ください!!

## 1 漁師の佃煮浜じまん 3個セット

4  
名様



大船渡産の昆布を、特製の調味液で甘辛く仕上げた逸品。熟練した職人が、一晩かけてやさしく、じっくりと炊き上げました。のり状に細かく刻

まれた昆布でご飯を引き立て、お酒も進みます。天然素材のみで仕上げた、味わい深い海の恵みです。  
有限会社タイコウ: <http://sanrikutaikou.jp/>

■提供/有限会社 タイコウ

## 2 釜石シーウェイブス ラガー麺(4人前)

3  
名様



釜石シーウェイブスとのコラボレーション商品。ラガーマンをイメージした、こしの強い極太麺に、四川風のピリ辛ゴマ味噌味のスープがよく合いま

す! おすすめの食べ方はつけ麺。お好みでごま油を加えてもおいしく味わえます。

株式会社川喜: <http://www.kawakinomen.com/>

■提供/株式会社 川喜

## 3 山ぶどうサイダー(1本200ml)

3  
名様



良質の野田村産山ぶどうの中でも、酸味と甘みが程よい在来種「森のばあぶる」を使用。「酸味」と「甘味」が調和した、山ぶどう特有の深い味わい

を残すために甘さは控えめ。さっぱりとした大人のサイダーです。

いわて三陸のだむらばあぶる: <http://pa-puru.com/>

■提供/株式会社 のだむら

## 4 キューブクーヘン(プレーン) 3個セット

3  
名様



大人気商品「夢の樹バウム」の生地を、食べやすいキューブ状に焼き上げました。「夢の樹バウム」とは焼き方も違うため、さらにしっとりとした食

感が楽しめます。岩手の内陸、沿岸の食材を使用した、「made in 岩手」にこだわった自慢のお菓子です。

おかし工房木村屋: <http://okashitsukasa-kimuraya.com/>

■提供/おかし工房木村屋

## 応募方法

- 応募方法/必要事項(希望商品、郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号、本誌入場場所、ご意見・ご感想)を記入の上、はがき、もしくはメールでご応募ください。
- 宛先/〒020-0871 岩手県盛岡市中/橋通1-1-21 ラヂオもりおか内「Stitch」編集部 プレゼント係
- アドレス/ [stitch@morioka-fukkou.com](mailto:stitch@morioka-fukkou.com) ■応募締切/平成28年1月29日必着

## Stitch 設置場所

【岩手県内・盛岡】MOSS/クロステラス盛岡/盛岡南SCサンサ/ななく/おでっ/アイーナ/盛岡バスセンター/IGRいわて銀河鉄道/もりおか歴史文化館/岩手県立図書館/盛岡市立図書館/ジョブカフェいわてなど街中各店/岩手県内道の駅/三陸沿岸各店 【岩手県外】いわて銀河プラザ(東京)/Cafe Hi famiglia(東京)/さくらWORKS<関内>(神奈川)/喫茶ともしび(東京)/風の駅(京都)/OMAR BOOKS(沖縄) 他

次号 Vol.19は、3月発行予定

思わず出かけたくなる新デザイン! 待望のハイブリッドも新登場!!

★ New  
**Sienta**  
Debut



スタイリッシュ  
デザイン

斬新かつ  
スタイリッシュな  
エクステリア

Photo:HYBRID G(7人乗り・2WD)。ボディカラーはエアアイエロー(5B6)。

安全装備

毎日乗るクルマだから、  
毎日の安心をサポート

事故の危険から遠ざけてくれる  
トヨタ独自の安全装備パッケージ。



**Toyota Safety Sense C**

衝突回避支援パッケージ



早く  
見つける!



距離を  
知る!



止まるを  
助ける!



夜を  
見やすく!



レーンを  
守る!

Toyota Safety Sense C 設定車種 : 全車にメーカーオプション<HYBRID GLは54,000円>  
車両本体価格には含まれません。\*オプション価格はグレードによって異なります。  
詳しくは販売店スタッフにおたずねください。



車間距離が詰まって、衝突しそうになると  
警報とブレーキで衝突回避をサポートします。  
**プリクラッシュセーフティシステム**  
(レーザーレーダー+単眼カメラ方式)



車線をはみ出しそう  
になると、警報を  
出してドライバーに  
注意を促します。

レーンデパーチャーアラート



自動的にハイビーム  
とロービームを  
切り替え、夜道の  
視界を確保します。

オートマチックハイビーム

■これらの機能はあくまで運転補助機能です。本機能を過信せず、  
必ずドライバーが責任を持って運転してください。

**ネットトヨタ岩手**



the Creative.

本社/盛岡市東仙北2丁目13-35(バイパス沿い) TEL 019-636-2111(代)  
定休日/火曜日、第一月曜日 営業時間/9:30~18:00 ※宮古店、大船渡店は異なります。  
<http://www.netz-i.co.jp/>